

特別支援教育における指導の観点に基づく 教員養成プログラムの作成に関する研究

—視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害児の授業における配慮点の共有に向けて—

The Study on the Development of the Program to Train Teachers for Special Needs Education from a Perspective of Instructional Methods

— To Share the Points to be Considered when Instructing Children with Visual
Impairment, Hearing Impairment, Intellectual Disability, Physical Disability, Health
Impairment, and/or Developmental Disorders —

川戸明子 太田 仁 伊丹昌一

(梅花女子大学心理こども学部)

KAWATO Akiko OTA Jin ITAMI Shouichi

(Faculty of Psychology and Children's Studies, BAIKA Women's University)

[キーワード]・特別支援教育実践・授業における配慮点・教員養成

Keywords: Educational practice for special needs education, Points for consideration in lessons, Teacher training

はじめに

平成15年3月に文部科学省から「今後の特別支援教育の在り方について」(最終報告)が出され、平成16年度に入り中央教育審議会で「特別支援教育を推進していくための制度の在り方」が審議された。それまでの障害の程度等に応じ特別の場で指導を行う「特殊教育」から障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育への転換を図るという教育改革」が実施され、すでに8年が経過しようとしている。

特別支援教育では、これまで特殊教育の対象としてきた児童生徒(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の対象となる児童生徒)に加えて、通常の学級に在籍している発達障害等の児童生徒も対象に含むとされている。なお、通常の学級に在籍している発達障害等の児童生徒は、生活や学習上の困難さに加えて、周囲の理解が不十分で適切な対応がなされてこなかったことが課題となっていることに留意する必要がある。

今日では、特別支援学校のみならず、通常の学校においても特別支援教育の知識や指導技術、さらにそれらを統合した教育実践力が必要とされてきている。しかしながら、我が国の学校現場においては、団塊の世代の大量退職以降、教員の年齢構成の不均衡が教育実践力の継承を一層、困難なものにしている。具体的には、校内研修も機能しにくく、OJT(=On the Job Training) Off-JT(=Off the Job Training)の循環性による職能の向上が期待できない状況がある。つまり、これまでの専門的な知識や技能、有用な教材教具の継承を実現することは教育現場の喫緊の課題と言える。

問題

今日の学校現場において、以下の点に対する早急の対応が求められる。

1. 特別支援教育を必要とする児童生徒が増加している点（特に知的障害を対象とする特別支援学校と知的障害を対象とする特別支援学級）
2. 発達障害等特別な支援を必要とする子どもへの配慮の必要性が高まっている点
3. 合理的配慮に基づく通常学級における障害種別に応じた配慮の必要性が増加している点
4. 上記3点により教員は増加したが、その専門性の確保は十分ではない点
5. そのため、特別支援教育の免許を取得することができる大学も増えてきているが、教員養成プログラムが整備されていない点

梅花女子大学心理子ども学部心理学科においては、2013年度から、特別支援学校教諭免許状の取得を目指すコースを設置した。この免許を取得することにより、卒業後、これまで得た知識や実践を有効に活用する機会が得られるものと思われる。

学校においては、授業改善の取り組みは、次の授業をよりよく実践していくことに繋がらなければならない。本研究は、大学段階での特別支援教育についての知識や経験を増やすための教員養成プログラムの作成をめざすものである。

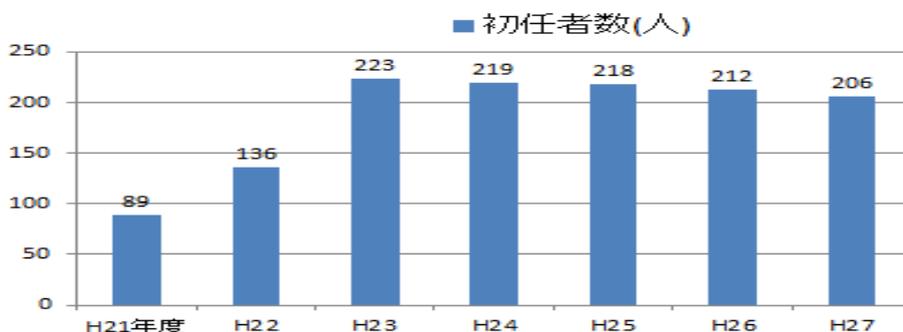
川戸・太田・伊丹（2013）は、授業の流れに沿った障害種別ごとの児童生徒への配慮点に焦点を当て、経験の少ない教員が授業における配慮点を理解し、指導に生かすことを目的として、大阪府立支援学校（以下「府立支援学校」）の管理職や教員の協力を得ながら5年かけて作成した配慮事項を一覧表として示し、自己チェックできる「授業改善にむけてのふりかえりシート」（以下「ふりかえりシート」）を作成した。

本研究の目的は、「ふりかえりシート」を用いて、これから特別支援教育に携わる教員を志す大学生と平成26年度の大阪府立支援学校初任者との「知っている障害種別」の実態把握を通じて、特別支援教育における基本的な学習プログラム作成に寄与する指標を得ることにある。

方法

- ・調査時期：2014年4月下旬～2015年2月中旬
- ・調査対象者：3大学（梅花女子大学・大阪大谷大学・大阪教育大学）の特別支援教育の講座を受講している大学生290/307名（回収率94.5%）と、平成26年度の大阪府立支援学校初任者184/212名（回収率86.8%）。
- ・質問紙構成：「授業改善に向けてのふりかえりシート（教室版）」回答用紙は別紙とし、巻末に掲載（表3表4表5）。
- *2014年4月、梅花女子大学でこの「ふりかえりシート」を大学生に活用するに当たり、所属名を、梅花女子大学（川戸）2014年.4月と変更した。
- ・調査の実施方法：大学生については、講義中に「ふりかえりシート」を配布し、その場で回答を求め、回収した。府立支援学校初任者については、学校に郵送して後日調査票を郵送にて回収した。

大阪府立支援学校の初任者研修受講者数の推移



【図1】大阪府立支援学校の初任者研修受講者数の推移

(平成21:89 人平成22:136人/平成23:223人/平成24:219人/平成25:218人/平成26:212人/平成27 : 206人)
研究調査結果

1. 大学生と初任者との比較「知っている障害種別は？」 (図2)

大学生の方が知っている割合が高い。

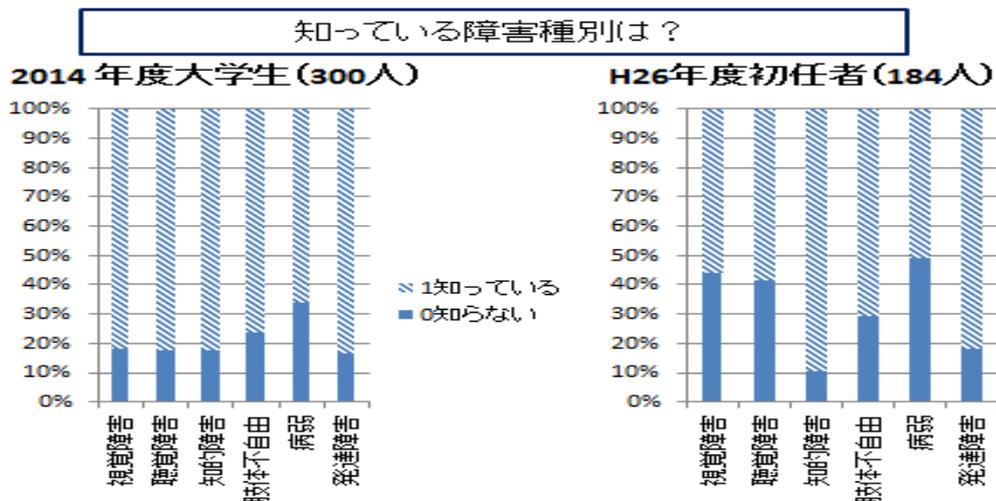
大学生が、知っている順番は

- ① 発達障害 ②知的障害 ③肢体不自由④聴覚障害⑤視覚障害⑥病弱

初任者が、知っている順番は、

- ① 知的障害 ②発達障害 ③肢体不自由④聴覚障害⑤視覚障害⑥病弱

いずれも知的と発達障害がよく知られていることが分かった。また、3番以下の順位は大学生、初任者とも変わらなかった。

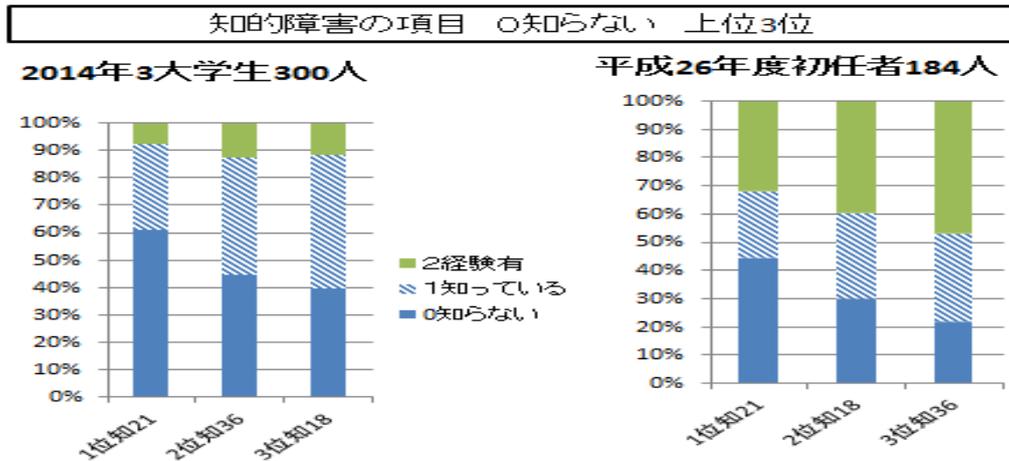


【図2】知っている障害種別は？

2. 大学生と初任者との比較「知的障害の項目について」

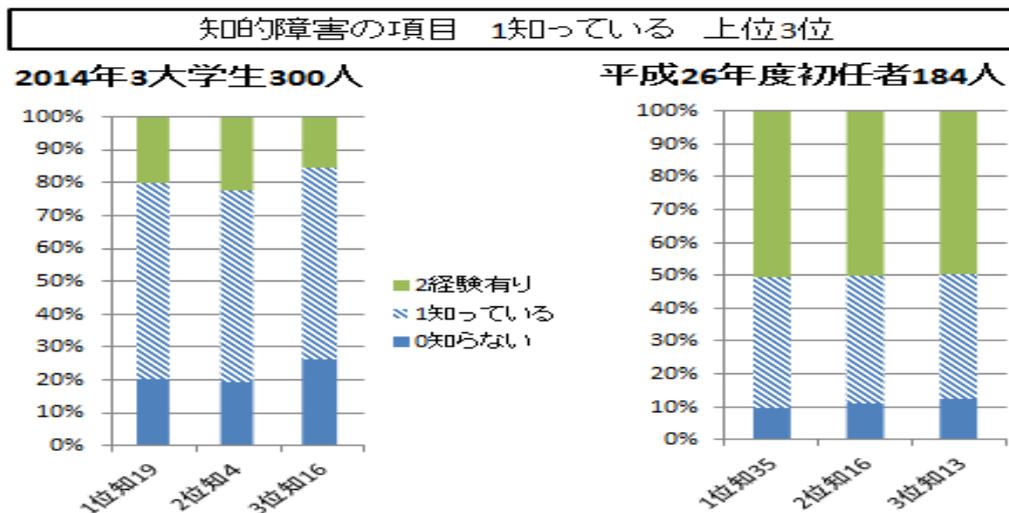
府立支援学校32校のうち、児童生徒数が最も多い知的障害対象の学校が23校（知肢併置校5校を含む）あるので、まず知的障害の配慮事項から検討した。

1)回答の[0知らない] [1知っている] [2経験有り]の項目の回答数の多い順に上位3位の項目について比較した。(%) (図3・図4・図5)



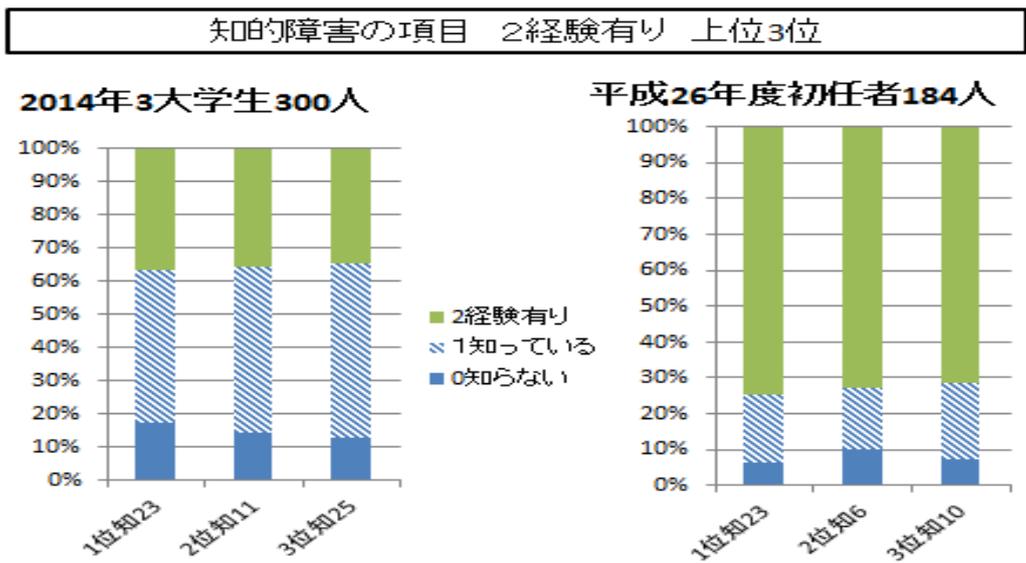
[図3]2014年度大学生と平成26年度初任者との比較

知的障害の項目の[0知らない]の上位3位は大学生、初任者とも同じで、
 知18：黒板の分割活用
 知21：ロッキング等の常同行動への適切な対応
 知36：単語の発言を受け止め、助詞を補う
 の3項目であった。



[図4]2014年度大学生と平成26年度初任者との比較

知的障害の項目の[1知っている]の上位3位では大学生と初任者で一致している項目はなかった。



[図5]2014年度大学生と平成26年度初任者との比較

知的障害の項目の[2経験有り]の上位3位のうち大学生と初任者で一致している項目は、知23：即時に具体的にほめているかであった。

- 1) 大学生及び初任者の知的項目におけるそれぞれ上位3位までの項目を比較した。
(表1)

[表1]知的項目の上位3位の内容比較

知的項目の上位3位の内容比較				
上位3位	大学生	難易度	H26年度初任者	難易度
0知らない	21)ロッキン等の常同行動への適切な対応 36)単語の発言を受けとめ、助詞を補う 18)黒板の分割活用	☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆	18)黒板の分割活用 21)ロッキン等の常同行動への適切な対応 36)単語の発言を受けとめ、助詞を補う	☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆
1知っている	4)安全で操作の易しい教材か 16)どこを書き写すか明示しているか 2)体格に合った机、いすの高さか	☆ ☆☆ ☆	3)座席の適切な配置 6)挨拶のパターンを決め、モデルを示す 35)何を考えるか具体的にわかったか	☆☆ ☆ ☆☆
2経験有り	23)即時に具体的にほめているか 11)流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか 25)成果の確認をして、褒めているか	☆ ☆☆ ☆☆	6)挨拶のパターンを決め、モデルを示す 10)具体物(教材教具)を提示して確認したか 25)成果の確認をして、褒めているか	☆☆ ☆☆ ☆

☆ : 知識があれば、経験が無くてもすぐに取り組める項目
 ☆☆ : 知識に加え、子どもに応じて対応や程度を変える必要のある項目
 ☆☆☆ : 知識経験に基づく常同行動への対応(自立活動)や子どもに合わせた専門的指導を必要とする項目(マカトン法・行動療法・動作法等)
 *難易度(☆・☆☆・☆☆☆)については、特別支援教育経験者である本研究者3名で協議し評価した。

2) 初任者の[2 経験有り]、及び[1 知っている]の上位3項目について、大学生ではどの程度の回答数があるかを比較した(%) (表2)

[表2] 初任者の[1知っている+2経験有り]の上位3位の項目を
大学生ではどの程度の回答数になっているかを比較

初任者の[1知っている+2経験有り]の上位3位の項目を大学生ではどの程度の回答数になっているかを比較			
初任者の[1知っている+2経験有り]の上位項目	H26年度初任者(184人)	難易度	大学生(300人)
上位1位 知5: 授業の流れとTTの役割分担の確認をしているか	[25%+69%]94%	☆☆	[40%+25.3%]65.3%
上位2位 知12: ゆっくり明瞭に話しているか 知23: 即時に具体的にほめているか 知25: 成果の確認をしてほめている	[29.3%+64.1%]93.5% [19.0%+74.5%]93.5% [23.4%+70.1%]93.5%	☆☆ ☆☆ ☆	[54.7%+33%]87.7% [46%+36.7%]82.7% [52.3%+34.7%]87%
上位3位 知11: 流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか	[23.4%+69.4%]93%	☆	[50.3%+35.3%]85.7%

考察

1) 初任者の[2 経験有り]の上位にある項目は、1位(73%)は知的6番「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)」、2位(71%)は知的10番「具体物(教材教具)を提示して確認したか」、3位(70%)は知的25番「成果の確認をして、褒めているか」で、[1知っている]も合わせてみると、1位知的6番(90%)、2位知的10番(92%)、3位知的25番(94%)と、いずれも90%を超えている。これらの項目は、特別支援学校では、特に教員に意識されている項目といえる。また難易度から見るといずれも知識があれば経験が無くてもすぐに取り組める項目であった。

一方、大学生の場合は、1位(%)は、知的23番「即時に具体的にほめているか」2位(%)11番「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」3位(%)25番「成果の確認をして、褒めているか」となっていて、1位と3位がほめることであり、うまくできたときは即座にほめるが実践されていることがわかる。

また、2位(%)11番「流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか」は、近年発達障害についての知識を取り入れ、対応していることが多く、ボランティアでも発達障害の子どもとかわることが多いことが影響しているものと思われる。

2) 初任者の[2 経験有り]、及び[1 知っている]の上位3項目について、大学生との比較は表2のとおりである。初任者と大学生では、7%~27.7%の差が出ている。大学生では、[1知っている]の方が上回っており、初任者は[2経験有り]が上回っていた。実際学校で児童生徒にかかわっているかの差ははっきり出ている。

以上の結果から、大学における特別支援教育の授業内容としては、やみくもに知識や経験を増やすのではなく、普遍的で特別支援学校で指導する際に必要不可欠な内容、項目に絞っ

て理解を深め、実践力を養うのが効果的であろう。まず知識があれば即実践できる内容について授業内容に取り入れることが急務である。

また、これらの項目は、特別支援学校や学級に限らず、通常の学校でも必要で、有効な項目である。例えば、(知的6)「挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)」では、多くの知的障害の特別支援学校が実践しており、小学部、中学部、高等部と学年が上がるにつれて、そのパターンは変化し、高等部では、職業自立も視野に入れ、「礼」の挨拶のあと「お願いします」や「ありがとうございました」と言ってからお辞儀をする方法で行っている。この知識を知っておくことで、特別支援学校に勤め教壇に立ったその日から児童生徒を指導できることになる。

(知的10)「具体物(教材教具)を提示して確認したか」も、知的障害のある子どもは、言葉だけの説明では理解が難しいので、具体的に絵や写真、実物を見せることで理解につながるが、これは、発達障害のある子どもも同じで、現在、地域の小・中学校で、「授業のユニバーサルデザイン」として視覚化が勧められていることと一致する。

また、「ふりかえりシート」を使って、配慮事項の具体的な指導について、グループワークなどで深めることにより、特別支援教育指導法演習ABやこどもサポート演習ABにおいて、実際に特別支援学校や障害者施設等での演習の時、またボランティアの経験に活かせるものとなり、それが将来、特別支援学校での指導に役立つものと思われる。

今後に向けて

「ふりかえりシート」を用いることで、以下の教育的効果が期待できる。

- ① 現場でこれまで培われてきた特別支援教育に関する「ふりかえりシート」の配慮点等、特別支援教育における有用な情報を分析し、これから特別支援教育をめざす学生の知識や経験の獲得に寄与する
- ② 「ふりかえりシート」の活用により、特別支援教育の経験がない、または少ない学生が障害のある子どもたちに接し、授業をする上で何に気をつけ、どんな配慮が必要となるのかという基礎的知識の理解と教育技術の促進を図る
- ③ 大学での特別支援教育の授業に「ふりかえりシート」の内容を取り入れることにより、基礎的な知識や経験(教育実習等に取り組む姿勢や観点)を有する対人援助における有用な人材の育成に資する

今後のインクルーシブ教育システム構築に向けた合理的配慮の視点を高めるためにもさらなる活用をうながしていきたい。

謝辞

本研究は、2014年度プロジェクト研究助成(代表者:川戸明子)を受けて実施した研究成果の一部である。この研究を行うのにあたり、全大阪府立支援学校の管理職始め教職員の皆様と大阪大谷大学、大阪教育大学の教員、学生の皆様、大阪府教育センター支援教育研究室には、多大なるご協力をいただきました。記して深く感謝いたします。

参考文献

- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」他 平成23年11月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「大阪の支援教育」平成24・25年度版 大阪府教育委員会 平成24・25年11月
- ・大阪の授業STANDARD 平成24年5月 大阪府教育センター
- ・2014年度 梅花女子大学心理こども学部紀要5「特別支援学校における『指導実践改善シート』～1作成までの経緯～」p43～p66

[要旨]

特別支援教育では、これまで特殊教育の対象としてきた児童生徒（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の対象となる児童生徒）に加えて、通常の学級に在籍している発達障害等の児童生徒も対象に含むとされている。今、特別支援学校のみならず、通常の学校においても特別支援教育の知識や指導技術さらにそれらを統合した教育実践力が必要とされてきているが、学校においては、団塊の世代の大量退職以降日本の教員の年齢構成の不均衡が教育実践力の伝承を困難なものとしている。これまでの専門的な知識や技能、有用な教材教具の継承を実現することは教育現場の喫緊の課題である。

梅花女子大学心理こども学部心理学科においては、2013年度から、特別支援学校教諭免許状の取得を目指すコースを設置した。この免許を取得することにより、卒業後、これまで得た知識や実践を有効に活用する機会が得られるものと思われる。

その端緒として本報告では、授業の流れに沿った障害種別ごとの児童生徒への配慮事項を一覧表として示した、自己チェックできる「授業改善にむけてのふりかえりシート」（以下「ふりかえりシート」）を活用し、これから特別支援教育に携わる教員をめざしている学生の段階から、特別支援教育における授業のあり方についての基本的な学習のプログラム作成を目的としている。

[キーワード]

・特別支援教育実践、授業における配慮点、教員養成

[英文要旨][Abstract]

The students with disabilities such as visual disorder, hearing impairment, physical and intellectual disabilities, and health impairments have been entitled to receive the instruction at schools for special needs education or special classes in regular schools, or with the special support services in resource rooms. In addition to the above mentioned students, special needs education is to be provided for the students with developmental or other disorders who are enrolled in regular classes. Not only at special needs schools but also at regular schools, the need has been rising for the teachers to acquire the knowledge of special needs education, instructional techniques, and the ability of educational practice to integrate the knowledge and techniques. However, the age distribution of teachers has been imbalanced since the loss of many teachers due to the retirement of baby boomer generation, which makes the succession of the ability of educational practice very difficult. It is the priority issue for schools to achieve the succession of special knowledge and techniques, and also the effective teaching materials and equipment.

The department of psychology in the faculty of psychology and children's studies of the BAIKA Women's University started offering an authorized program for acquiring a special needs school teacher certificate in the academic year 2013. By holding this certificate, graduates will be given opportunities to make effective use of their knowledge and experiences that they have gained at the university.

To mark the beginning, this report aims to establish a basic study program for students who are studying to become teachers in special needs education to teach them how the instructions of special needs education should be. This study used the self-evaluation sheet called "The evaluation sheet for the improvement of daily educational practice at the schools for special needs education (hereinafter referred as K-ESIPS)," which is the list of items that need to be considered for students in the flow of lessons, categorized in accordance with the type of disabilities.

[附録] 以下のページに、次の表を載せる (計4ページ)

- [表3][改訂版]「授業改善にむけてのふりかえりシート」 (2014.4.1梅花女子大学) (p39, 40)
- [表4]回答記入用紙 (大学生調査用) (p41)
- [表5]回答記入用紙 (初任者調査用) (p42)

[表3][改訂版]「授業改善にむけてのふりかえりシート」(2014.4.1 梅花女子大学)

	キーワード	番号	評価の観点	1 視覚障がい	2 聴覚障がい	3 知的障がい
1	事前準備	環境	1 授業をする環境が整っているか	1) 視覚補助具の準備はできているか 2) 採光の調整、室温、座席の位置は適切か	1) 集団補聴器の準備と座席配置(馬蹄形等)はできているか 2) PC、大型テレビ等や掲示教材の準備はできているか 3) 板書指導案を準備しているか	1) 教材教具の準備とその位置、安全確認ができているか 2) 体相に合った机、いすの高さか 3) 座席の配置は適切か
		教材	2 必要な教材がそろっているか	3) 触察教材も活用しているか	4) 視覚教材も活用しているか 5) ビデオ・写真等の音量が適切に確認しているか	4) 安全で操作の易しい教材か
		サポーター(サブ)との連携	3 TT(チームティーチング)の分担確認はできているか	4) 学習活動場面に応じた役割分担を確認しているか	6) 学習活動場面に応じた役割分担を確認しているか	5) 授業の流れとTTの役割分担の確認をしているか
2	授業開始	挨拶	4 授業開始の挨拶はできているか	5) あいさつをする顔や身体の向き、距離に対するの音量が適切であるかの確認がされているか(終わりの挨拶も)	7) 発声、手話を用いて全員そろって挨拶させているか(終わりの挨拶も)	6) 挨拶のパターンを決め、モデルを示しているか(終わりの挨拶も)
		出欠・体調確認	5 出欠確認・体調の自己管理を指導しているか	6) 友だちの出欠をお互いに確認できているか 7) 自己申告できる場面があるか	8) 友だちの出欠をお互いに確認できているか 9) 自己申告できる場面があるか	7) TTで共有しているか 8) 自己申告できる場面があるか
		子どもの授業準備(構え)の確認	6 子どもの授業準備が出来ているかを確認しているか	8) 指先が冷えていないか 9) 各自必要な視覚補助具が準備できているか	10) 補聴器スイッチや電池の確認等ができているか	9) 指示に沿った授業準備ができているか
3	導入	前回のふりかえり	7 前回の授業のふりかえりをしているか	10) 教科書や前回の教材を用いて確認したか	11) 前回の掲示教材やプリント、ノート等で確認したか	10) 具体物(教材教具)を提示して確認したか
		本時の説明	8 本時の課題を確認し意欲を高めているか	11) 単元全体の中で本時の課題を説明しているか	12) 単元目標と本時の関連を確認しているか 13) 何を学習するか声に出して確認させているか	11) 流れを視覚的に理解しやすい工夫をしているか
4	展開	学習内容の説明	9 説明の言葉は、聴き取りやすい、適切な言葉を遣っているか 説明と、板書の時間を分けて確保をしているか(掲示物の説明)	12) 指示語を使わず、具体的に相手に向かって話しているか 13) 「全体から部分へ」という説明方法の基本に留意しているか	14) 主題、目的語を明確に話しているか 15) 教員は口形を意識して正面から話しているか 16) 不適切な幼児ごときを使っていないか 17) 集団補聴器を活用しているか 18) 見る一読む一書くの活動を分けているか	12) ゆっくり明瞭に発音しているか 13) 音に敏感な子どもへの配慮はあるか 14) マカトン法、ジェスチャー等を取り入れているか 15) 見る一読む一書くの活動を分けているか
		板書・掲示物	10 板書、掲示物の文字は、どの座席からでも読めるか 板書、掲示物の配置は、話の流れにそって整理されているか	14) 黒板では「白・黄」「赤・青」のチョーク、ホワイトボードでは「黒・青」「黄」の使用に留意しているか 15) 文字の大きさ、フォントに配慮しているか 16) 記号やマークをつけて整理しているか	19) 筆順は正しいか 20) 絵カード、文字カード等を活用しているか	16) どこを書き写すかを明示しているか 17) 赤・青・黄・黒の扱いに注意しているか 18) 黒板の分割活用しているか 19) 読み仮名の付加や文字の大きさ等に配慮しているか
		机間指導	11 子どもの状況に応じて適切に机間指導をしているか	17) 正しくノートが書けているか 18) 必要以上の負荷がかかっていないかの確認をしているか	21) 注視時間が長すぎないか、内容を理解できているかの確認をしているか	20) 自発的な行動を促しているか 21) ロッキング等の常同行動への適切な対応があるか
		発問と評価	12 子どもの状況に応じた適切な発問がされているか 子どもの答えを肯定的に評価し、全体に返しているか	19) 「次の人」「後ろの人」ではなく、名前を呼んで発問をしているか 20) 具体的な数字等に置き換えて、全体に返しているか	22) 発問内容を理解できているかの確認をしているか 23) 集団討論に全員が参加出来ているか	22) 選択肢から選ぶ、カードの提示等、答え方の指導をしているか 23) 即時に具体的にほめているか
5	結び	本時のふりかえり	13 まとめの内容は、課題や本時の目標と一致しているか	21) まとめから本時の目標が理解できる具体物や体験を取り入れているか	24) 何の学習をしたかを声に出して確認しているか	24) 課題とまともは一致しているか 25) 成果の確認をして、褒めているか
		次回予告と挨拶	14 次回の授業に言及しているか 終わりの挨拶はできているか	22) 日付や曜日、準備物の確認が具体的にされているか	25) 板書、ノートで確認しているか	26) 次回の予告を具体的にしているか
6	授業の工夫	注目	15 子どもに正対しているか	23) 教員の気配を感じているかを確認しているか	26) 子どもたちは全員教師を見ているか確認しているか	27) 目があうのを待っているか 28) 注意を向けさせる手立てがあるか
		学習内容・学習量	16 学力差等に応じた学習内容の工夫があるか 個々の子どもの学習量は、適切であったか	24) 時間配分は十分か 25) どの子どもも学習に参加できているか	27) 個別の課題準備ができているか	29) 個別の課題準備ができているか 30) 何をどこまでするかを明確に伝えているか
		教材	17 事前の教材研究は、本時の目標や課題に合っていたか	26) 触察教材(具体物、実物)の準備があるか	28) どの子どもも学習に参加できる教材の工夫があるか	31) 実物や具体物、シンプルな図など課題や終わり方にわかりやすい工夫があったか
		サポーター(サブ)との連携	18 TTの役割分担は適切であったか	27) 子どもへの接し方について共通確認しているか	29) 子どもへの接し方について共通確認しているか	32) 個々の子どもへの対応の違いが明確にされ、接し方について共通確認しているか
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20 関心・意欲・態度を引き出す工夫があったか	28) 学習活動を自分で最初から最後まで行うことができたか	30) 相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段の選択及び活用ができたか	33) 興味を示す具体的掲示(ICT・見本)があったか
		思考・判断・表現	21 個人またはグループで考えたり、発表したりできる活動を構成したか	29) 聴覚的な手がかりから相手の意図や感情をとらえ、一人で、またはグループで考えたり、発表したりする活動ができたか	31) 一人で、またはグループで考える場の設定ができていたか 32) 友だちの発表を注目して聞いていたか	34) 考えを選んだり、友だちの発言を聞くことができたか 35) 何を考えるか具体的にわかったか 36) 単語の発言を受けとめ、助詞等を補ってもらえたか
		技能	22 必要な技能や資料等を活用する場面を設定したか	30) 手順やポイントが明確に理解できたか	33) 理解したことを文などにまとめたり、話合いの内容を確認するため書いて提示し読むなど、理解したことを言葉にすることができたか	37) 分担した作業に取り組み、責任をもって作業することができたか
		知識・理解	23 習得すべき知識や重要な概念等が理解できる工夫があったか	31) 模型や実物に触るなど能動的な学習活動ができたか	34) 流れなどから物事を総合的に判断することができたか	38) インターネットの技術や操作なども含め、実生活につながる学習ができたか

	キーワード	番号	評価の観点	4 肢体不自由	5 病弱	6 発達障がい・自閉症
1	事前準備	環境	1 授業をする環境が整っているか	1) 室温、湿度が適切に保たれているか 2) 教材教具や補助具の位置と、安全確認ができて いるか 3) 車イスが通れるスペースがあるか	1) 学習許可や室温、湿度、教材等の消毒済みの確 認をしているか 2) 学習場所、スペースの消毒や安全確認ができて いるか	1) 不必要な掲示はないか 2) 前時の板書がきれいに消されているか
		教材	2 必要な教材がそろっているか	4) 扱いやすい、軽い教材か 5) 教材等を固定する工夫があるか	3) 個々の子どもの教科書等での単元等の確認をし ているか	3) 個別の学習方法に対応できる教材か
		ツアティーチヤ(サブ)との連携	3 TT (チームティーチング) の 分担確認はできているか	6) 授業の流れとTTの役割分担の確認をしているか 7) 本時に担当する子どもの状況と課題の確認をし ているか	4) 本時に担当する子どもの状況と課題の確認をし ているか	4) 子どもへの接し方について役割分担しているか
2	授業開始	挨拶	4 授業開始の挨拶はできているか	8) 姿勢や気持ちを整えて挨拶することを意識させ ているか (終わりの挨拶も)	5) 自分の可能な姿勢で気持ちを整えて挨拶させて いるか (終わりの挨拶も)	5) 時間の切り替えを意識させることができたか (終わりの挨拶も)
		出欠・体調確認	5 出欠確認・体調の自己管理を指導 しているか	9) TTで共有しているか 10) 一人づつ顔色や表情、覚醒状態や体調を確認し ているか	6) 欠席理由を確実に把握しているか 7) 自己管理ができるよう、自己申告を受け、顔色 や副作用等の影響の確認をしているか	6) TTで共有しているか 7) 自分から申告する方法を指導しているか
		子どもの授業準備(構え)の確認	6 子どもの授業準備が出来ているか を確認しているか	11) ノジソニック・呼吸器等、個々の準備ができてい るか	8) 自分で授業準備ができているか	8) 自分に必要なタイマー、カード等の授業準備が できているか
3	導入	前回のふりかえり	7 前の授業のふりかえりをしている か	12) 具体物 (教材教具) を提示して確認したか	9) 個々の教科書やノートで確認したか	9) 前回の提示教材で、想起の工夫をしているか
		本時の説明	8 本時の課題を確認し意欲を高めて いるか	13) 休憩時間も含め、時間配分を表示し自分が取り 組む際のイメージができるよう工夫しているか	10) 本時の流れとともに、学習量を伝えているか	10) 本時の流れと到達目標をあらかじめ示してい るか
4	展開	学習内容の説明	9 ・説明の言葉は、聴き取りやす い、適切な言葉を選んでいるか ・説明と、板書の時間を分けて確 保をしているか (掲示物の説明)	14) 聞きやすい側から話しているか 15) 簡潔な説明をしているか 16) 不適切な幼児ことばを使っていないか	11) 環境(病院)に応じた音量調整をしているか 12) 気持ちに配慮した言葉遣いをしているか	11) 音に敏感な子どもに配慮はあるか 12) 具体的表現で説明のポイントと全量を示してい るか 13) 禁止語や反応しやすい語を避けているか 14) 助詞を丁寧に説明しているか
		板書・掲示物	10 ・板書、掲示物の文字は、どの座 席からでも読めるか ・板書、掲示物の配置は、話の流 れにそって整理されているか	17) ICT (大型テレビ等) の位置は適切か 18) 板書と同じプリントや個別のPC等の用意がで きているか	13) 子どものそばで「初代」やICT (タブレット 型端末) 等を使用しているか 14) 板書と同じプリントの用意があるか	15) ICT等を活用してポイントを分かりやすく示 しているか 16) 黒板を分割活用しているか 17) 電子黒板の掲示や板書と同じプリントを用意し ているか
		机間指導	11 子どもの状況に応じて適切に机間 指導をしているか	19) 体調の急変・同じ体位が長くないか注意してい るか	15) 体調の急変・医療器械のトラブルに対応できる 用意があるか	18) 勘違い、聞き違いがないかを確認しているか 19) 気持ちや姿勢の立て直しを促しているか
		発問と評価	12 ・子どもの状況に応じた適切な発 問がされているか ・子どもの答えを肯定的に評価 し、全体に返しているか	20) エス・カードやマイク、VOCA等支援機器による答え 方の工夫があるか 21) 達成感が得られるタイミングで的確にほめてい るか	16) 子どもの習熟度や理解の程度に応じた発問内容 になっているか 17) 「わかった」と「できた」を区別してほめてい るか	20) 指名する順序等の予告をしているか 21) 即時に良かった点を具体的にほめているか
		本時のふりかえり	13 まとめの内容は、課題や本時の目 標と一致しているか	22) まとめと本時のふりかえりは児童生徒の思いや 理解の内容を引き出しているか	18) 「わかったこと」「できたこと」の確認と、ま とめは本時の目標と一致しているか	22) まとめと本時の振り返りを入れたか
5	結び	次回予告と挨拶	14 ・次回の授業に言及しているか ・終わりの挨拶はできているか	23) 次回の予告を具体的にしているか	19) 次回の予告を具体的にしているか	23) 次回の予告を具体的に、心の準備をさせて いるか
		注目	15 子どもに正対しているか	24) 必要に応じ子どもに近づいているか	20) 必要に応じ子どもに近づいているか	24) 子どもとの距離を考えているか 25) 注意を向けさせる手立てを考えているか
		学習内容・学習量	16 ・学力差等に応じた学習内容の工 夫があるか ・個々の子どもの学習量は、適切 であったか	25) 個別の課題準備ができているか	21) 個別の課題準備ができているか	26) 達成感の持てるプリントの量や問題数に配慮し ているか 27) 集中できる時間を配慮しているか
		教材	17 事前の教材研究は、本時の目標や 課題に合っていたか	26) どの子どもも学習に参加できる教材の工夫があ るか	22) Drから使用許可のある教材であるか 23) 学習意欲を高める教材であるか	28) 特性を考慮しているか
		ツアティーチヤ(サブ)との連携	18 TTの役割分担は適切であったか	27) 児童生徒の個別担当は計画的に変えているか	24) 安全確認、課題の個別指導担当ができているか	29) 子どもへの接し方について共通確認できている か
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20 関心・意欲・態度を引き出す工夫 があったか	28) 興味を示す具体的掲示 (ICTや支援機器を活用) があったか	25) ICT等を活用し、間接的な体験ができる工夫があ ったか	30) 好きな物と関連付けするなど興味・関心が持てる よう、ICT等が活用されていたか
		思考・判断・表現	21 個人またはグループで考えたり、 発表したりできる活動を構成したか	29) 考えを巡らしたり、意思表示を表情や行動から読 み取ってもらえたか 30) 発言や意思表示ができる時間の余裕があったか 31) 可能な表現手段を使ったか	26) 友だちや教師と考えたことを深め、表現する時 間設定があったか	31) 何を考えるか明確に紙に書いて示されたか 32) 事前に聞いたルールを守り、適切な行動や発言 ができたか 33) 発言のパターンが作られていたか
		技能	22 必要な技能や資料等を活用する場 面を設定したか	32) 手順やポイントを可能な方法で学習することが できたか	27) 状態に応じた方法で学習することができたか 28) 可能な範囲で、具体的に様々な教材を使い技能 を高めることができたか	34) 微細な動きや不器用さに対応した工夫があるこ とで技能が身についたか
		知識・理解	23 習得すべき知識や重要な概念等が 理解できる工夫があったか	33) 体験的な活動を通し、学習内容を理解するこ とができたか	29) 操作可能な方法で実際に体験しながら、学習内 容がわかったか	35) 実体験を通し適切に意味を理解することができ たか。

[表4] 回答記入用紙 (大学生調査用)

[改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙 調査日 2014. . No								
()大学()学部()回生(男・女)学籍番号()名前()								
質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・ 2 聴覚障害・ 3 知的障害・ 4 肢体不自由・ 5 病弱・ 6 発達障害、自閉症								
質問② 下の表の配慮事項で、知らない項目には0・知っている項目には1・経験したことのある項目には2を記入してください								
	キーワード	番号	①1視覚障害 ②配慮事項 0/1/2	①2聴覚障害 ②配慮事項 0/1/2	①3知的障害 ②配慮事項 0/1/2	①4肢体不自由 ②配慮事項 0/1/2	①5病弱 ②配慮事項 0/1/2	①6発達障害・自閉症 ②配慮事項 0/1/2
1	事前準備	環境	1) 1) 2) 2)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2) 3) 3)	1) 1) 2) 2)	1) 1) 2) 2)
		教材	2 3)	4) 4) 5) 5)	4) 4) 5) 5)	4) 4) 5) 5)	3) 3)	3) 3)
		ブレイク(サブ)との連携	3 4)	6) 6)	5) 5)	6) 6) 7) 7)	4) 4)	4) 4)
2	授業開始	挨拶	4 5)	7) 7)	6) 6)	8) 8)	5) 5)	5) 5)
		出欠・休講確認	5 6) 7) 7)	8) 8) 9) 9)	7) 7) 8) 8)	9) 9) 10) 10)	6) 6) 7) 7)	6) 6) 7) 7)
		子どもの授業準備(教え)の確認	6 8) 9) 9)	10) 10)	9) 9)	11) 11)	8) 8)	8) 8)
3	導入	前回のふりかえり	7 10)	11) 11)	10) 10)	12) 12)	9) 9)	9) 9)
		本時の説明	8 11) 12) 12) 13) 13)	12) 12) 13) 13)	11) 11)	13) 13)	10) 10)	10) 10)
4	展開	学習内容の説明	9 12) 13) 13)	14) 14) 15) 15) 16) 16) 17) 17) 18) 18)	12) 12) 13) 13) 14) 14) 15) 15)	14) 14) 15) 15) 16) 16)	11) 11) 12) 12)	11) 11) 12) 12) 13) 13) 14) 14)
		板書・掲示物	10 14) 15) 15) 16) 16)	19) 19) 20) 20)	16) 16) 17) 17) 18) 18) 19) 19)	17) 17) 18) 18)	13) 13) 14) 14)	15) 15) 16) 16) 17) 17)
		机間指導	11 17) 18) 18)	21) 21)	20) 20) 21) 21)	19) 19)	15) 15)	18) 18) 19) 19)
		発問と評価	12 19) 20) 20)	22) 22) 23) 23)	22) 22) 23) 23)	20) 20) 21) 21)	16) 16) 17) 17)	20) 20) 21) 21)
5	結び	本時のふりかえり	13 21)	24) 24)	24) 24) 25) 25)	22) 22)	18) 18)	22) 22)
		次回予告と挨拶	14 22)	25) 25)	26) 26)	23) 23)	19) 19)	23) 23)
6	授業の工夫	注目	15 23)	26) 26)	27) 27) 28) 28)	24) 24)	20) 20)	24) 24) 25) 25)
		学習内容・学習量	16 24) 25) 25)	27) 27)	29) 29) 30) 30)	25) 25)	21) 21)	26) 26) 27) 27)
		教材	17 26)	28) 28)	31) 31)	26) 26)	22) 22) 23) 23)	28) 28)
		ブレイク(サブ)との連携	18 27)	29) 29)	32) 32)	27) 27)	24) 24)	29) 29)
		個別特性に応じた対応 (級生名)	19					
7	子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20 28)	30) 30)	33) 33)	28) 28)	25) 25)	30) 30)
		思考・判断・表現	21 29)	31) 31) 32) 32)	34) 34) 35) 35) 36) 36)	29) 29) 30) 30) 31) 31)	26) 26)	31) 31) 32) 32) 33) 33)
		技能	22 30)	33) 33)	37) 37)	32) 32)	27) 27) 28) 28)	34) 34)
		知識・理解	23 31)	34) 34)	38) 38)	33) 33)	29) 29)	35) 35)

[表5] 回答記入用紙 (初任者調査用)

☆[改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙 _____年____月____日 No. _____
 (_____) 支援学校(幼・小・中・高) 学部・(_____ 年所属) (男・女) 名前(_____)
 教職経験年数(_____) 在日・支援学校経験年数(_____) 在日 教科(_____)

質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・ 2 聴覚障害・ 3 知的障害・ 4 肢体不自由・ 5 病弱・ 6 発達障害、自閉症

質問② 下の表の配慮事項で、知らない項目には0・知っている項目には1・経験したことのある項目には2を記入してください

	キーワード	番号	①1視覚障害	①2聴覚障害	①3知的障害	①4肢体不自由	①5病弱	①6発達障害・自閉症
			②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2	②配慮事項 0/1/2
1 事前準備	環境	1	1) 2)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2)	1) 2)
	教材	2	3)	4) 5)	4)	4) 5)	3)	3)
	ツィーナー(サブ)との連携	3	4)	6)	5)	6) 7)	4)	4)
2 授業開始	挨拶	4	5)	7)	6)	8)	5)	5)
	出欠・体調確認	5	6) 7)	8) 9)	7) 8)	9) 10)	6) 7)	6) 7)
	子どもの授業準備(構え)の確認	6	8) 9)	10)	9)	11)	8)	8)
3 導入	前回のふりかえり	7	10)	11)	10)	12)	9)	9)
	本時の説明	8	11)	12) 13)	11)	13)	10)	10)
4 展開	学習内容の説明	9	12) 13)	14) 15) 16) 17) 18)	12) 13) 14) 15)	14) 15) 16)	11) 12)	11) 12) 13) 14)
	板書・掲示物	10	14) 15) 16)	19) 20)	16) 17) 18) 19)	17) 18)	13) 14)	15) 16) 17)
	机間指導	11	17) 18)	21)	20) 21)	19)	15)	18) 19)
	発問と評価	12	19) 20)	22) 23)	22) 23)	20) 21)	16) 17)	20) 21)
5 結び	本時のふりかえり	13	21)	24)	24) 25)	22)	18)	22)
	次回予告と挨拶	14	22)	25)	26)	23)	19)	23)
6 授業の工夫	注目	15	23)	26)	27) 28)	24)	20)	24) 25)
	学習内容・学習量	16	24) 25)	27)	29) 30)	25)	21)	26) 27)
	教材	17	26)	28)	31)	26)	22) 23)	28)
	ツィーナー(サブ)との連携	18	27)	29)	32)	27)	24)	29)
	個別特性に応じた対応(教科名)	19						
7 子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20	28)	30)	33)	28)	25)	30)
	思考・判断・表現	21	29)	31) 32)	34) 35) 36)	29) 30) 31)	26)	31) 32) 33)
	技能	22	30)	33)	37)	32)	27) 28)	34)
	知識・理解	23	31)	34)	38)	33)	29)	35)